

SSKO 東腎協

85年 1月25日

No. 54

東京都腎臓病患者連絡協議会（東腎協）

事務局・〒161 東京都

電話・

昭和五十一年二月二十五日第三種郵便物認可
SSKO通巻第一〇六一号（毎週月・金曜日発行）
昭和六十年一月十六日発行



え・大森 輝秋

◎腎バンクキャンペーンのまとめ＋感想文 ◎会員交流会開く

◎会員さん訪問「城間恒光・芙美子さん」

医療・社会保障の後退と東腎協の課題

東腎協事務局長

森

義昭



く治療が受けられることになりました。

しかし、国政段階では健保本人の二割負担や年金法・改正・など、医療や社会保障などの後退が次々に示されています。

このような中で東腎協は、展望委員会や常任幹事会などで、事務局員の増員、事務所の独立（全腎協事務所からの）、活動範囲の拡大とそれらに伴う財政問題について論議をしてきました。

そして、昨年十月及び十一月に開催された常任幹事会で、事務所の独立と会費の値上げについて意見の一致をみました。

その主な理由としては、

①東腎協は昭和四十九年十一月、全腎協事務所開設以来、同事務所に間借りして事務局を設置してきたが、全腎協が昨年九

月に事務局専従五人体制をとり、その他アルバイト最大時三人、東腎協も最大時三人で、完全に手狭になったこと。

②一方、会員数は依然として増加して全国一の組織となり、会員の多様な要求に応えきれず、医療や福祉の状況が厳しいこの時期に事務局としての確な対応ができなくなっている。まだ、活動範囲は今後さらに拡がると思われ、場所・人の両面で現状の改善は急務となっている。

③東腎協の会費は昭和五十年（全腎協会費別）度から千二百円（全腎協会費別）に値上げされ、以来十年間におたり値上げなしで運営されてきた。

④他県と比較しても会費は決して高くない。年間会費千二百円（全腎協会費別）以下は、四

十六県中十二県、最低は茨城県の八百円、最高は福島県の六千円、などです。

事務所独立や事務局体制の強化の具体化については、会費の値上げに依存するしかなく、他の財源を求めるのは不可能です。

これらの実施スケジュールとしては、事務所独立は昭和六十年（全腎協会費別）度中、会費の値上げ（額は未定）については昭和六十一年度より実施したい考えで、二月二十四日に開催予定の幹事会に提案・審議し、承認いただいた場合は四月開催予定の第十三回総会に提案する予定です。会員の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。



病弱児教育懇談会に

森事務局長が参加

十月十八日（金）中央区・八重洲の東京都教育委員会において第二回東京都訪問教育研究協

あけまして

おめでとうございます

昨年は、医療費問題で健保



宝生会長

改悪による本人一割負担反対の強い運動を展開しました。今、また年金法の改正案が衆議院を通過した段階で運動の必要性が重要になってきています。

この法案を認めれば、私たちの生活や医療は、ますます困難になっていきます。

このような厳しい状況の中で、本年も会員の皆さまと東腎協、全腎協の運動に力を合せて頑張ります。

間教育を制度的にも内容的にも充実させていくために調査・研究をすすめています。このほど「東京都における病虚弱児教育の今後のあり方について（報告）」をまとめ、東京都教育委員会・教育長に答申しました。そして、その具体化をすすめるために、今回、難病団体を招いて懇談会を開いたものです。

懇談会には、東腎協をはじめ社団法人日本てんかん協会東京支部、東京都心臓病の子供を守る会、東京「腎炎・ネフローゼ」児を守る会が参加しました。現在、病虚弱児の教育は、両親の理解度、学籍の問題などさまざまな困難があって必ずしもうまく運営されていないようです。

たとえば、都立清瀬小児病院の父母会が行った腎臓移植前後の子供たちの学校問題アンケート（一九八三年十月）をみると、半数以上の人が一・四年以上進

級を遅れています。また、訪問教育を必要とする人は、①腎移植をしたが、いろいろな（病気）理由で人工透析に戻った②腎移植をしたが肝炎が一時的にある者③高校生の場合、単位不足で留年（一・二年）している者（主に検査などで長期にわたって休む）となっており、教育の問題での悩みが深刻なことを物語っています。

答申は、今までの調査・研究をふまえた上で次の四項目のあり方についてふれています。①病弱養護学校のあり方②病弱児の訪問教育のあり方③病院内児童・生徒の教育のあり方④東京都における病虚弱児教育の今後。東腎協の会員の中には、児童・生徒はほとんどいません。そのため、今まで教育に関する活動が弱かったのですが、懇談会に参加して実情を知ることができました。

まとめ＋感想文

あなたの愛を腎バンクへ

84・9・16腎バンク街頭キャンペーン

△腎バンク街頭キャンペーンの
まとめ▽

用意したもの／チラシ1万5千枚、Tシャツ225枚、横断幕5、腕章10、メガホン12、参加証、腎バンク登録カードなど。

参加者数／215

テレビ放映／NHK、NTV

新聞／朝日、東京

上野（55人）

○ゼッケンを付けたのがよかった。手慣れた感じ。

銀座（65人）

○報道関係者への対応に役員が追われ、陣頭指揮をとる人がいなくなりました。

○報道関係者から、昨年に比べ

盛りあがりがないと指摘された。

新宿（31人）

○シャツが目立たなかった。ビラが少なかった。役員が2人では少なかった。

○ハンドマイクを使うと効果的、使わない場合では、チラシを受け取る人が少ない。

立川（41人）

○雨が降ったが、チラシは全部配布した。

○高島屋前で実施したので、チラシを高島屋内で捨てる人が多数いたため、デパート側におこられた。

○一会員がキャンペーンの主旨とはずれた宣伝を行った。

渋谷（23人）

今後の課題

一斉キャンペーンも3回目と

なり、当初はそれなりに報道関係も取りあげてくれたが、マンネリ化しつつあり、来年（85年）は従来の方法では取りあげてもらえるかは疑問である。

チラシは、簡潔で

わかりやすかった

田畑 一子

今にも雨が降りそうな曇り空の下での街頭キャンペーン。私たちの腎友会は今回初めての参加です。

始まる前は、ビラを受け取っ

また、報道関係者が集中した銀座では、役員がその対応に追われたなどの報告もあった。

東京においては、公道での演出は現状が精いっぱいである。従って今後は、例えばソニービルの角のような私有地を何らかの方法で使わせてもらい、そこで自由な演出をするという方向を検討することが必要である。そのための実行委員会や、東京での行動が全国的にも取りあげられることを考え、全腎協からも人的、財政的な援助を受ける必要がある。

でもらえるかどうか、透析の苦しみ、移植への希望等々、健康なみんなにわかってもらえるかしらとか不安が一杯でした。何しろ他の品物と違って「貴方の（死後の）腎臓を頂きたい」と訴えるのですから、やはり勇氣がいらす。

心の中では思っても、いざ声

にして言うのは大変なことでした。

私たちが立った上野の街では割に気持ちよく受け取って下さった方々が多く、予定より早く終わりました。後で捨てられたチラシも少なくホッと一息です。今回のチラシは、内容も簡潔でわかりやすく、また檉山文枝さんのイメージが大変良かったと思います。

次にこれをお願いですが、来



新宿駅にて

年からは是非とも運動中だけでも街頭に腎バンク登録所を設けてほしいと思います。献血車のように机を二つぐらい並べての簡単なもので良いのです。すぐには登録して下さる方はいかもしませんが、何年か続けていくうちには、もしかしたらその場で登録して下さる方があるかもしれません。一步一步の歩みが大切だと思います。

今年、私たちの病院からはボランティアの方、看護婦さん共に十一名の参加でしたが、このような機会に他の病院の方々とお会いすることができ、嬉しく思っております。

いつもお世話して下さる方は大変ですが、どうぞよろしくお願い致します。そして、私も仲間のひとりとして（というより一児の母として）せめて透析で頑張っている子供たちだけに明日の光に移植という希望を与えてやりたいものだと、しみじ

み思いました。

（東神田クリニック）

安心して透析や移植が受けられるように

坂口 俊雄

私は、今回初めてキャンペーンに参加させていただきました。場所は、新宿西口・小田急ハルクの前に集合（PM1・30、解散3・00）。

私は、人工透析をして一年二カ月と日が浅いのですが、家族である母と弟を腎不全から余病を併発させ亡くしています。

このような結果を一人でもなくし、一人でも多くの人が安心して透析や腎臓移植を受けられるような社会を作っていこうではありませんか。

私の通院している病院は東高円寺クリニックといます。今回のキャンペーンには松本氏、木村氏、前田氏、私と四名が参加させて頂きました。

私達は、スバルビルの前で道行く人へ「お願いします。ぜひお読みになって下さい」と声を大にしてチラシを渡しました。その時、チラシにすぐ目を通してくださる人、またバッグにすぐしまってしまう人とさまざまな受け取り方でした。

このような人達が、本当に私共の病状を理解し、また腎バンクに登録して下さることを願う次第であります。

私は、今回の活動を通して、もっとこまめにマスコミにアピールすべきではなかったかと思いました。（外国では、運転免許証の裏に腎バンク登録制度がとられていると聞いております）

今回のキャンペーンには、一人でも多くの人にキャンペーン参加を呼びかけ、盛り上がりを持っていくではありませんか。（自分自身のことなのだから）最後に事務局の人達も今後とも御苦労が多いことと思います

が、私共のためにがんばって下さい。今回のキャンペーン運動を喜びを持って参加させていだきましたことを感謝しております。

(東高門寺フ・ニックス会)

勇気を起こして

・お願いします・

沢田 雪子

朝から小雨のバラつく一日でした。東急プラザ前(渋谷駅)に一時半に集合。三軒茶屋病院からは十二名参加しました。

お揃いのTシャツに着がえスタート。皆さん、とてもなれていらっしゃるのにビツクリ。

「お願いします」と、さっとチラシを渡しています。私も、さあ勇気をふるい起こして、と「どうぞお願いします。是非お読み下さい」とか色々言ってみました。

受け取って下さる時は、とってもうれしく勇気が出ます。受

け取って下さらない時は、なんだかネクラになりそうでした。相手の顔をみ、まごころこめて渡しました。受け取って下さらない方が多いのに驚きました。比較的若い人が受け取って下さいました。是非読んでいただき、一人でも多くの方に登録していただけたらと思いました。また、もっと大勢の方にお手伝いしていただけたらと思いました。

(三軒茶屋病院腎友会)



上野にて

若い人の無関心に驚かされた

奥山 恵子

今回、初めてキャンペーンに参加した。最初は、何をどうしていいのかわからない状態ではあった。笑って渡すつもりで顔がこわ

ばり一枚も受け取ってもらえず、投げ出した気持ちをおさえずながら配布する。最初の一枚を受け取ってもらった時の気持ちは正直ホッとして、うれしかったり、さあ頑張るぞという意欲をもたせてくれたりした。

道行く人をつかまえては、ご協力をと呼びかけ配布するが、ソッポを向いて通り過ぎてしまう。これで感じたことは、あまりにも若い人達の無関心には驚かされたということだった。

医療は、日夜著しく進歩しているといっても、現在の患者さ

んたちにとっては、隔日あるいは週二回の透析はどんなにつらく大変なものだろう。その気持ちは私達が知り得ないはかり知れないものがあるだろうと出る。一人でも多くの方が、少しでも関心をもち、腎バンクに登録してもらえよう心から願いたい。

(東神田ニックス看護婦)

一人でも二人でも登録をして下されば

向笠 幸子

初めて腎キャンペーンに参加いたしました。お揃いのTシャツを着て、それぞれ街頭へ出ました。

「お願いします」と言いながら手渡すチラシは、少々難しく最初の一枚目を受け取って下さった時はうれしく勇気が出ました。井の頭線の渋谷駅から出て来る人の波の中でなんとか全部配ることが出来ました。ほとんどの人が関心を示してくれないこ

とを感じましたが、そのうちの一人でも二人でも心にとめ、登録をして下さる人が居るのではと思うと、このキャンペーンは私達にとっても本当に大切なことなのだと思い、新たに、また来年もぜひ参加させていたきたいと思いました。

（三軒茶屋病院腎友会）

自己紹介と意見の交換の場があればいい

経田 武吉

「腎パンクに御協力お願いします」から始まった。場所は上野西郷さんの下で通行人が多い所でしたが、上野から成田へ向かう旅行客が多く、大きな靴を持っていたりして、チャシを受け取るのも面倒なお顔をしてお通り過ぎて行きました。

代々木病院から四人が参加し女性三人、男性は私一人で、私は初めての参加でした。

女性三人の方はベテランで、

通行人の歩調に合わせ、タイミングよく必ず声をかけ「読んで下さい」と渡しておりました。

私は、最初から続けて受け取りを拒否され、渡す時は声も出せず一人悩み、くじけてしまいました。他の三人の方が私の分まで配布して下さいました。

約一時間のチャシの配布が終わり、解散となりました。病院別に記念写真を撮って頂き、皆同じTシャツを着てゼッケンを付け、連帯感を盛り上げました。

私の気持ちとしては、私は病院に一時間位かかりますが、近くと同じ透析をしている方を知るのは今日みたいな日でないと出来ないと思います。

少しの時間でも紹介と意見の交換の場があれば、もっと充実したものになると思います。

またチャシの件ですが、キャンペーン終了後、道路等に捨てられたチャシを見て本当に読んでいただいたのかなと疑問を持

ちました。

透析患者さんの中には、私と（花屋）同じ様に商売をしている方も多いと思います。私も得意先は約六百軒位あり、花を届けに行った際、チャシを渡し、説明してあげて受け取っていた方が効果があると思います。

実際の話として「腎パンク」とひと口にいても、もし私が透析患者でなかったら、チャシをいただいても目を通すかどうか分かりませんが、信号で停車する車の中から、キャンペーン中の私達を見る目は「何をやってるのかな？」の目と見たのは私だけだったでしょうか？

（代々木病院腎友会）

道行く人々の冷たさには胸を痛めました

岡部サキ子

朝からくもり空、なんとか降らないよう祈りながら、心の中

では道行く人々がはたして何人腎パンク関心あるか、期待と不安で立川に向いました。

着いて、すぐチャシ配りに入りましたが、期待はもてず、心の中は不安でいっぱいでした。

「お願いします。読んで下さい」……と何度も大声をあげて頭を下げ、チャシを配りましたが、道行く人々の冷たさには胸が痛くなりました。

もし自分達の家族の者が、このような腎臓病という重い病気を背負ったら、いやもっと腎臓病よりもひどい重病を負った時、このような無関心でいられるのでしょうか？

同じ人間同志、かばい合い、助け合いながら生きていかなければいけない世の中なのに、なぜ……と考えれば考えるほど悲しくなり、また世間の冷たい目につくづくなきえない思いでいっぱいでした。

私には人工透析を週に三回行

っている主人がおります。当日は、主人と娘と三人で行きチラシを配りましたが、三人とも心の中は同じことを思っています。

もっとも腎パンクのことをその日だけでなく、テレビやラジオで機会あるごとに協力を呼びかけてもらいたいと思います。

(北多摩病院腎友会)

いろいろのアイデア
を持ち寄る工夫を：

中田 青攻一

私はここ数年、東京の盛り場の街頭に立って道行く人に「よろしくお願いします」と呼びかけ、チラシを配ってきました。

今年は、天候が悪く、厚い雲におおわれ雨が心配な曇り下り。チラシを配る患者さんも壮老年で若い人の少ないこと。また家族の皆さんも頑張ってくれました。

私が、何時も感ずることは、会員の無関心層が若い人に多いように思える。このことは、チラシを受け取る側でも見られる。若いカップルは、明らかに拒否反応を示し避けているように思える。最も気楽に受け取ってくれるのは親子連れ、そして中年男女と思う。東京のような大都會の雑踏での人と人との触れ合いは、砂漠のようにさらっとして味けない。

年一回のキャンペーンをより多くの大衆に受け入れてもらうには、どう運動を展開するか非常に難しいことで、今年のＴシャツに横文字よりゼッケンに日本語で「皆さんも腎パンクに登録して下さい」。出来るなら、芸能界だけでなくスポーツ界で知名度のある人の協力をお願いするとか、若い学生のボランティアをお願いするとか、目先をかえ大衆を引きつける手段を考えるべきです。

色とりどりの風船に「腎パンクに登録して下さい」を印刷し手渡すと効果が上がりますよ。いずれにしても、いろいろのアイデアを持寄って考えてみるべきです。

しかも、患者会が主催であることを私達は再認識し、もっと協力的にならなければ多くのみなさんの協力は得られないと思う。一人でも多い参加を望むものです。

(ニール友の会)

看護婦さんの参加に
心から感謝をしたい

原 三代吉

朝から厚い雲が覆い、時々小雨がちらつくはつきりしない肌寒い天気である。今日は登録十万人を目ざす全国統一街頭キャンペーン実施日として、都内五カ所の地域に別れて行われました。

私達の患者会でも五名の方が

参加されました。私はバスを利用して上野の集合場所に着いた時は十二時十五分でしたが、早々と役員の方が二十三名準備に取りかかっておりました。

時間が過ぎるにつれ各患者会から多くの方が参加されました。東神田クリニックの患者会の中に看護婦さんが二名参加されました。私達透析患者のためにご協力を下さいまして心からお礼申し上げますと共に深く感謝の意を表します。

日曜日とあってか上野駅付近は人が多く、三カ所に別れて配布されたチラシ（二千八百枚）もあっという間に配ることが出来ました。

白い腎パンクのＴシャツを着て前後にゼッケンをつけて「腎パンクにご協力下さい」。お願いします、お願いします」と道行く人に訴えました。差し出すチラシを読む人、出されたチラシを横目で見て通り過ぎて行く人、

進んでチラシを手中に収め、苦勞様と声をかけて下さる方も何人か見うけられました。しかし、配布された二千八百枚のチラシの中から何人の方が腎バンクに登録されることでしょうか。今後の課題ですが。

十万一二十万と一人でも多くの腎登録者を増していくには、街頭キャンペーンだけでなく情報時代を活用してテレビ・ラジオと茶の間に訴え、そして行く末は、先進国同様、国の行政の一環として運輸省または公安委員会に依頼して運転免許更新の際に腎提供がスムーズに行われるような時代が早く来るよう希望致します。

最後に、私達透析患者の実態を一人でも多くの国民の皆様を理解していただけるよう、今後とも全腎協、東腎協の会活動を中心に精力的に取り組んでほしいものです。

(腎研友の会)

揃いのTシャツは、統一感があって良い

高橋 忠夫

今回の街頭キャンペーンで、私は三回目の参加でしたが、午後一時半の集合時間より遅れてしまい、他の人達は熱心にチラシ配りをしていました。

しばらくしてから雨が降りだし、早目に終了して役員の方の話を聞き、解散しました。



銀座にて

今回の活動で印象に残ったのは、揃いのTシャツを着たことです。色も白で清潔な感じがするし、統一感があって良いと思います。

ただ残念なのは、雨の為チラシを渡しても受け取らずに行ってしまう人が多かったことです。来年は天気が良ければと思います。

(個人会員)

効果的なキャンペーンができるよう期待

高森 秀彦

今回、初めてキャンペーンに参加して、皆様の一生懸命な姿勢に接し、改めて腎バンクの重要性を再認識しました。今回の参加に際し、感じたことを二、三箇条書きしますので参考にしたいだければ幸いです。

1. 特注のTシャツ着用でのキャンペーンですが、経費的にも効果的にも再検討の必要を感じ

じます。毎回、使用できるもの(例——タスキやゼッケン、あるいは背番号のような形式)で色彩と文字(英字より漢字の方が分かり易い)の点も効果的になるような配慮がほしい。

2. 配布するチラシに郵便葉書を同封し、必要事項を記入して投函すると登録できるような配慮をしてほしい。

3. 前もって人員が把握できているので、キャンペーンの人員配置を事前に役員の方で決め、各人がそれにもとづいて動く効果的なキャンペーンができるのではないのでしょうか。(配布場所の設定と一箇所に置く人数)

(吉祥寺クリニック)

運転免許証に腎登録の制度ができれば……

小森 喜代子

泣き出しそうな空の下、初めて街頭キャンペーンに参加させていただきました。

そろいのTシャツを着て、渡されたチラシを手に「読んで下さい。参考にして下さい」と呼びかけて渡しますが、なかなか受取ってくれません。夢中で仲間の方と離れて人通りをかなり離れてなんとか一枚も残さずもらってもらいました。

立川駅前では、毎年、キャンペーンを行っているようですが、私共の近くの国鉄八王子駅でも駅ビルやそごうデパートが立ち並んで人の姿も数多く見られます。

高島屋の前で配られたチラシが、すぐデパートのゴミ箱に捨てられるとかで、デパート側より注意があったと耳にしました。せめて荷物にならないので、家庭までお供させてもらって家族の方にも読んでいただきたいと願いました。でも恥ずかしいことですが、曲りの者も腎パンタに登録していません。私も時々、登録の声をかけるのですが、

なかなか決心が決まらないようです。

毎年々、数多くの交通事故死の方が新聞やニュースで報道されますが、昨月ニュースでもちらっと呼びかけていましたが、自動車の運転免許証の書き替えの時に腎パンタへの登録が義務づけられていれば、現在までも子供や若い方達がどれ程透析から離れていくことができたかと思えます。登録が出来る法律が決まることを願っております。

(南多摩病院のばら会)

チラシまきだけでなくユニークな企画を

久保谷 恵子

1. Tシャツは発想はいいのですが、デザインがモダンすぎるというか、あまり目立ちませんでした。むしろ黄色のゼッケンの方がよかったのでは。

2. 新宿は二十八人参加だそ

うですが、それが数カ所に分かれてのチラシまきだったため、「数人で淋しく」という感じで盛り上がりませんでした。

3. ただチラシをまくだけでは、参加者も盛り上がりません。「イベント」というか何かユニークな企画を考えた方がいい、という意見が多かったです。

(例えば、代々木病院では、新宿九人、銀座・上野一人ずつの計十一人のスタッフが参加してくれたわけですが、ナース、テクニシヤンのユニホームで参加してもらい、テーブルを出して血圧測定サービスを行う、などの企画)

(代々木病院腎友会)

— お礼とおことわり —

たくさんの方から腎パンタ街頭キャンペーンの感想文を送っていただきありがとうございます。

なお、誌面の都合で掲載できなかったものもありますが、ご了承ください。

腎バンク登録
ぜひお願いしたいのです
あなたにも

申し込みは東腎協へ
03(952)4065

今「愛の透析」を語り合い、「生きる」ことを考える

城間恒光・美美子さん

城間恒光さんは四十九歳。慢性腎炎で普通の生活をしてきましたが、六年前から人工透析を受けざるを得なくなりました。透析導入の初期にひどい精神的障害に襲われ、家族でそれを取り越えた経過を夫人の美美子さんは、小説（『愛の透析』）にまとめ、大きな反響をよびました。英会（新宿区市ヶ谷）の近くには東京女子医大があるのに診察を受けてみようという気が起こらなかった、ということです。

その頃、住んでいた百合丘の病院で最初に診てもらったのでした。

夫君の恒光さんは、駅ビル内にある青少年センターの談話室で待っているというので、さっそくそこで話を聞くことにしました。

発病と透析

恒光「自分が最初に選択した病院が運命を分けたんですねえ」
昭和四十五年（一九七〇年）



そして、五十三年（一九七八年）十月、具合が悪くなり検査をしたら即入院、人工腎臓の世話になるという運命に出会ってしまったのです。

恒光「それまで一家をなして来て、急に人工透析の宣告。職場も確保できるだろうか、家族はどうなってしまおうのだろうか

という絶望的な気持ちになりました」。

美美子「このころ、家も建ててこの人（恒光さん）の両親を引きとって一緒に住むことになっていたのですが、父親が心筋こう塞で突然亡くなってしまい、一ぺんにマイナス要因が増えて精神的な障害が起きました」。

この精神的な障害を乗り越えるために、また、いかにして社会復帰を果たしていくかという課題に向かって夫妻でどれほど苦労をしたかは、小説『愛の透析』に詳しく書かれています。

そして、実行したことは、新築したばかりの家を売り、職場に近い透析設備のある病院と同居しました。

——新築した家を、すぐ売り払うことなどなかなかできないことではないと思いますが……

美美子「ためらいがなかったといえば嘘になります。でも何のために生きるのか、どうい

ふうにしていくのが一番良いかを考えればできると思うんですよ」

「よりよく生きていくための努力を二人で共同して背負って生きている、という感じを強く受けます。」

恒光「家にいる時は、シャキッとした姿をしていることはなく、いつもソファに寝ていたりして、だらしない姿を見せているので、子供達には悪い影響を与えていると思います。」

子供達に透析とはどんなものかを理解させるために、私が透析を受けている現場を見せ、テクニシャンの人から透析について説明してもらいました」

親の苦勞する姿を子ども達に見せることによって、子供達も納得をし、両親への愛情を育てているのではないか、と思います。

「愛の透析」のこと



城間美美子さん

——小説を書くようになったのはいつ頃だったのでしょうか。

美美子「原型は前に書いていたのですが、出版を前提にした話がありました。（八三年）四月終り頃で、発表したものかどうかはすごく悩みました。結局、六月中旬までに書き上げました。正味は一カ月間くらいでした。」

創林社は、社長が恒光さんの知り合いで透析患者さんが書いた本を出版していたので、透析についてはよく理解していたと

思います」

——書くとした動機は、なんだったのでしょうか。

美美子「私は恵まれた環境、病院も一流。何を大げさのことをと批難されるだろうと思っていました。この人の恥になるものも触れなければならないし、

あえて書いたのは、恵まれている私達でもこんなに陥ち込んだのだから、もしかして私達以外にも落ち込んでいる人がいれば役に立つと思ったからです」

——反響はありましたか。

美美子「思っていた以上にありました。いまだに電話や手紙が時々きます。私のために書いてくれた、という人もいました。女のグチととれる部分もありました。ここにも仲間がいたという安心感があるからでしょうか」

一人でも悩んでいる人が、この本によって悩みが軽くなればいい、と謙虚に語る美美子さん。

美美子「（私は）患者本人ではないのでいいにくい立場ですが、女性の場合、内にこもる思いがあるでしょ」

悩み苦しみながらも、夫婦として、何をするのが最善か、ということをつきつめて考えているんです。

趣味はカラオケ

——趣味はなんですか（恒光さんへ）。

恒光「学生時代は、スポーツは何でもやったが、今は見るだけ。ラグビー、野球、相撲など。野球は西武ファンで、西鉄ライオンズ時代からのファン。年に何回か球場に足を運んで応援しますよ。」

音楽を聴くのも好きです。クラシックから演歌まで。今、カラオケにこっています。家にカラオケが二百曲くらいあり、忘年会が近ずくと二週間位前から練習しています」

美美子「カラオケの名人なんですよ。どうしてか」と、飲まないで歌えるから（笑）」

恒光「今の悩みは、かゆみがとれないことです。寒くなるとひどくなります。透折をしていても、一年中孫の手を離せないで困っています。いろんな薬もつけてみたのですが、駄目でしたね」

恒光さんは、新宿・三井ビルタリニクで日本育英会に勤務しています。第二臨調によって奨学金にも利子制度が導入されたことを「諸外国にも例がない悪法」と指摘します。教育や福祉が削られていく昨今の状況に激しい怒りを表明します。

そして、私達の生きる指標として憲法二十五条の「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」とともに、第二項をしっかりと押えて、我々の生きる権利を押し進めていこう、と強調するのです。その第二項とは、

「国は、すべての生活面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない」

このインタビュに当って、美美子さんが『愛の透折』を通して親しくなったという木村さんに仲介の労をお願いしました。話はずんで三時間以上になっ

てしまいました。

「また本を出しますか」という質問に、「あと十年か二十年したら書けるかも知れませんね」と恒光さんが答えてくれました。本の原稿を書いている時は、和文タイプの仕事をしていましたが、難読になってしまい、今は旅行社に勤める美美子さん。

恒光さん、美美子さん、これからも二人で助け合って、よりよい人生を切り拓いて下さい。またお会いして話し合えることを楽しみにしています。

（文と写真・加藤）

城間御夫妻 との対談

木村 妙子

美美子さんとお知り合いになれた。縁の糸には「たえこのひとりと」とした。拙文をお読み下さった彼女が御著書を送って下さり、それから、お手紙やお電話でのやりとりが続き、この十月十九日、初めてお目にかかることができました。

お住居の近くの飯田橋駅での待ち合わせでした。生憎、雨の夕方でしたが、この駅は学生時代、通学の時の乗換駅でしたので、なつかしい思いがしました。お電話でのお声はとても上品で、私のようながさつな者では

お話しが合わないのではないかと心配でしたが、お目にかかることやさしい上に暖かいお人柄であることが伝わってきて、すぐうちとけることができました。

御主人の城間さんは近くの青少年センターでお待ちになっていられ、編集の加藤さんをまじえて四人で、レストランに席を改め、日頃、思っている様々なことを話し合いました。

お仕事柄、国会の内情にもくわしく、大変示唆に富んだ理論的な御意見をうかがい、久し振りに心の通じ合える方々と、内容深い会話を持って、幸福でした。知的な御夫婦の典型のようであるという関係なら結婚も捨てなものでないかと一人者の私は考えさせられてしまったのです。

美美子さんも見たり聞いたりがお好きとのことで、何かのチャンスにまたお話ししよう、と、楽しみにして、お別れしました。

たえこの

ひとりごと〈8〉

東腎協常任幹事

木村 妙子

この原稿は年頭の機関誌に載るのだと思うが、話題としては今現在明るいことを書ける状況ではない。

売腎問題

売腎の問題が新聞紙上に大きく取り上げられたのはつい最近のことであった。売る人は論外としても、それを受け入れた透析患者と手術した医師が存在することに對して、同じ透析患者として恥ずかしいとかいう種類の単純な批判ではすまされないうい思いがする。

医師に対しては港間、既に医は仁術でなく金術などという言葉が流布されていることから、

なぜか、あまりショックを受け

ない。けれど、やはり「^①医者さん」と「お」「さん」なる敬語を二つもつけられる存在である（あった）わけなのだから、

いくら患者が希望してもたしなめるぐらいの良識を持っていた

いただきたかったと残念に思う。売腎問題は腎移植の提供登録の制度と深い係わりを持ち、ま

た更に脳死の認定問題とつながっていくひきがねとなっている。

Y新聞が大々的にキャンペーンをして下さっていることには感謝と敬意の念を覚える。

たまたま古い切抜を見ていたら一九八二年の移植学会の記事に大西記者の脳死に関する報道があった。今年一九八四年になって人工心臓などの報道で急に取引組んだものでなく、ずっと係わって下さっているわけである。

十二月四日付の朝刊にも増岡厚生大臣の談話として現在の百

倍の腎登録を目指して関係機関に働きかけるとあった。私たち患者が力を尽して呼びかけてきたことが、公（おおやけ）に認められたわけである。

このように官民一致しての行動の背景には透析医療費の増大という動かしがたい現実が存在すると思う。

脳死と移植

朝日ジャーナル十一月二日号の特集「死の倫理を問う」の、脳死と移植の経済学・によると日本での脳死患者は年間七千人でこれを現在のように心臓死になるまで人工呼吸器などを使用して治療続けると一日五万円として二十四億五千万円かかる。さらに透析患者は年間一人当たり約八百万円かかるが、移植をすればアメリカの例では一年目に二百六十万円／三百三十万円、二年目に五万／三十万円だといふことである。

もっとも一年間でも生着すれば経費も浮くが拒否反応が強く

て一・二回はお小水が出てもすぐに透析に戻らなければいけないとなれば、透析医療費の上に更に移植費用が上乗せになるわけだから、移植即ち医療費削減

ということにはならない。

もちろん移植から透析へ戻るに際して不幸にも患者が亡くなれば、その後の医療費はゼロとなるわけである。こんなことを書くのは嫌味とかひがみからではなくて、透析患者の心ある仲間

は常に社会的医療費の負担において生きているということを忘れたことはないということを知ってもらいたいからである。

だが、まだ評価は定まっていないものの免疫抑制剤サイクロスポリンAの開発によって、移植成績が高まってきて、アメリカからの腎臓も来なくなるとなれば、日本政府、厚生省もやはり重い腰を上げざるを得なくな

ったのであらう。

しかし、ふりかえって我が国を見れば、移植登録は国民感情の遺体崇拝感から全然必要数に満たないし、はたまた脳死問題は一九八四年の移植学会に反対派が出席せろと乗り込んで一もめあったことからわかるように学界内部でも一致団結していない上、国民的コンセンサスなどは遠い夢の段階である。

このような混乱を抱えたまま上からの押しつけや法律などで無理に国民に納得させるのは患者として心苦しい。

移植登録の壁

私たち透析患者は医療費抑制のために、東腎協・全腎協の運動の中で、移植キャンペーンにも取り組んできたし、何よりも透析患者を出さないことが先決であるとして、腎臓病の早期発見、早期治療を目指して国民皆検査制度と腎臓病を内科臨



え・福元美保子

床の段階で治療させるための研究施設・腎センターの設置を要望してきた。

私たち透析患者の本当の声は夢の免疫抑制剤の開発ももちろんありたいが、こういう尿毒症で死ぬはめになる前に（透析をやっているから生命は維持しているが、私たちは皆、一度死んだ苦の人間なのだ）腎臓を良くする薬がないものかという嘆息なのである。

私人人としては移植登録を国

が声をかけて大々的にやってくれるのはこれまでの運動が報われたのだから、ありがたいが、あくまでも強制はしたくない。志があれば登録していただくというものだと思う。

その点、増岡厚相はご自身も登録しようと思ったが年を取っているからと言われたというところでまず、魂（かい）より始められたのは立派と言える。はたして移植関係者の何多

登録をしているだろうか。なぜ

このようにも移植登録に抵抗があるのか自分の感情も含めて不思議に思っていたが、九月三日毎日新聞の夕刊にあった加地伸行氏の論文によって納得した。

本題は中国一人っ子政策の無理を突いたものであるが、その中で日本人についても需教的祖先崇拝は姿を変えて日本仏教の中に流れていて魂魄（こんぱく）が依りつく場としての遺体の重要性を説かれている。成程と想った。このように根強いものを変えるのには日時がかかる。

自分の遺体の一部によって手術さえ成功すれば他人の生命を救い、生き続けるのだと思えるまでには時間がかかる。

脳死も、木の葉が木の枝から離れた時を死としか地中に還った時を生を終りとするかに似ているが、私には地面に落ちて濡れている紅葉もまだまだ美しく見えるのだが、理由は次の回に譲ろう。

患者会の活動、私の健康法など

会員交流会で活発な話し合い

十一月四日、東京都障害者福祉会館で会員交流会を開きました。参加者は二十六人と少人数でしたが、うちとけた雰囲気での交流会になりました。今回の交流会では、主に会活動と一人ひとりの健康法の二点を中心にして報告します。

宝生会長からあいさつを受け、その後、参加者の自己紹介を行い、その中で出された患者会の活動と無関心層をどうしているかを最初に話し合いました。

行事、催しなど

△ニレ友の会▽

春の一泊旅行は、月本金と火木土組の二班に分けて実施。八四年は、透析が終わった夜に病院を出発し、伊勢へ出かけた。透析が終わって出発というのはつらいと思ったが、目的地に着いて仮眠、入浴もでき、疲れないうで帰京することができた。余



裕があり、変化もあってよかったのではないかな。

秋は日帰り旅行。バス三台で秩父へ。会費をできるだけ安くして多くの会員が参加できるように努力した。忘年会も恒例の行

事になっている。

△腎研友の会▽

二月に新年会。二年に一回一泊旅行に行く。八三年は長野の高遠へ。八月は学習会を開き、健保改悪問題について宝生会長を招いて行った。

△大和病院透析友の会▽

患者は、医者が一緒に行く旅行ならば参加したいといっているが、今のところ実現できない。春と秋にボウリング大会を開き、これにはボウリングの好きな看護婦さんも参加しているので患者とスタッフとの接点の役目を果たしている。

△飯田橋クリニック腎友会▽

会費が半年で四千二百円（東腎協、全腎協含む）と高いが、三月に総会を開く際、食事をしながらやったり、旅行の援助金や会員名簿を印刷するために使っている。

患者会の活動についての無関心層（特に未加入者）について

は、十月一日からの健保改悪を一人ひとりに説明し会員になってもらった例など出されました。

また、役員問題では、古い役員ばかり動き回って新しい役員はなかなか動いてくれない、という悩みも出されました。

東腎協会費の値上げ問題についての疑問も出されました。

値上げ幅が問題、せめて三千円くらいまでなら（腎研友の会）いっぺんにやらないで三百円とか五百円の値上げにして欲しい（ニレ友の会）

この問題については、常任幹事会、幹事会、総会と時間をかけて対処していくことが宝生会長、森事務局長から報告されました。

私の健康法

健康を保つ秘訣について出してもらいました。まず、「私はよく歩いて、歩くのが生きがい」というほどの山田さん（ニレ

友の会)から発言をしていたいただきました。

山田 透析に入って十一年目になりました。導入のため入院した時、院長から「足腰をきたえるように」といわれて以来、努力してきました。

最初はつらくて、女房の買い物につきあって十〜十五分位、次に駅まで歩いたり…。

なにかの事態(災害)の時には病院までいかなければならないと病院まで(東十条から金町まで15km位)歩いてみようと思った。交差点の信号の所では、信号が変わるまで屈伸運動したりしました。そして、四時間半飲まず食わずで歩き通すことができました。

すると、今度はあっちへ行ってみよう、こっちへ行ってみようと思うようになり、あちこち出かけるようになりました。歩いていると、何かの役に立つものです。シューウィンドゥ

をのぞいてどこの店の品物が安いのか、どんなものがあるかを知ると、会の行事の景品を出す時などもすぐ買い集めることができます。

『歩く健康法』などという本も読みますが、足の裏には刺激をすると内臓の働きをよくする効果があるそうです。

今、一週間に一回三時間前後歩き、毎日一〜一時間半位歩いています。心臓も強くなりきたえられと思います。とにかく、コツコツ歩くことはいいことだと思っております。

原(腎研友の会) 私は、野球を三十年間やってきました。現在は監督として教えています。が、教え子の中にはオリンピックや甲子園で活躍した選手もいます。

小泉(常任幹事) 私は釣りが好きでよく出かけます。透析が終了すると、その夜車で行き、翌朝から夕方まで釣りをし

て疲れて帰って来ます。

中村(大和病院) 狩猟を二十五年間続けています。丁度透析に入る頃は忙しくて狩猟に行けなくて、そんなことも身体に悪かったと思います。

今は、ヘマトも三十あり、最高の状態です。

三ツ木(三軒茶屋病院) 一日おきに一時間半水泳をやっています。一日に六〜七百m泳ぎます。おかげで、十年間入院もしないで元気です。心臓が丈夫になりました。

柴田(大和病院) ボウリン



グが好きで時々行きます。以前は、デイスコに行っていました。が、今は家で音楽をかけて一人で踊っています。全身汗をかき、気持ちいい。

また、病院の患者で歩くことが好きな人がいて、一緒に朝の九時から一日中、都内の庭園めぐりをしてきました。

大沢(新小岩クリニック)

皆さん歩くことがいとおっしゃっていますが、私はこの七月に透析導入をしたばかりです。

その時、体重が百十kgで、今は九十六kg。駅まで七分の所でもタクシーを利用していましたが、皆さんの話を聞き、これから頑張りたいと思います。

この他、医療スタッフ不足の問題、災害時の対策などが話し合われました。最後に国会請願署名、募金の必要性和意義について宝生会長、高橋副会長から出され閉会しました。

仲間のたより

病氣のつれづれに

東海病院 桃木 幸男

透析を終わりで坐る丸きイス

煙草を吸えど心休まらず

さらめける秋の陽ざしも病室の

明日の光も我に遠し

針をさす痛みになれし我の身に

透析の影の消ゆる時なし

病室の壁にかざれる油絵の

モナリザ笑みて我を見守る

吾が生きる險しき道を守る医師

変わらなきかと目で語りぬ

生命のひかり消さじと医師は言

う託くし四年の春から冬へ

夢なれば消えて欲しき透析も

起さればベッドに身は臥せて

目の前に立ては自動の戸開きて
我を吸いこむ病院の朝

子は母を探して歩く公園の
芝生に赤き靴置去りて

患者会の旅行

宿泊所のご案内

東腎協会員の中村幹蔵（大和病院）さんから近くてよい宿泊する施設がありますと、次の所を紹介されました。

患者会の旅行、催しなどで利用されたらいかがでしょうか。

松寿荘 （3700円）

埼玉県比企郡滑川村福田

2132

0493 (56) 3351

比企広域市町村で共同して設置した老人福祉施設で一般にも使用可。近くには国営武蔵丘陵森林公園があります。申し込み方法は、四カ月前から電話で。

待ちぼうけ



柴山光一郎

東腎協役員で

ドライブの旅へ

九月二十二日（土）～二十三日（日）にかけて東腎協常任幹

事有志による親睦一泊旅行を行い、十人が参加しました。

一ノ瀬、草間、林田さん三台の車に分乗して奥多摩をドライブ。東京駅～新宿駅～国立IC～奥多摩バイパス～吉野梅郷・紅梅苑で昼食、吉川英治記念館～奥多摩湖～奥多摩有料道路～

神戸山荘（泊）。二日目は神戸山荘～神戸岩～秋川溪谷～東京富士美術館～帰京という行程でした。

常任幹事会や各種の活動でよく顔を合わせているメンバーばかりですが、ゆっくりと個人的な話をする機会もなかったのが計画したというものです。趣味の話やカラオケを楽しみ、お互いの親睦を深めました。たまには東腎協の活動を離れて、みんなで騒ぐのもいいものです。

「三鷹在住の会員で」
友の会の発会式を開く



昨年十一月十八日(日)、「三鷹市腎臓病友の会」の発会式が三鷹市社会福祉会館で開かれました。発起人は、藤代栄一、菅野芳雄(市福祉相談員)、小泉左内(東腎協常任幹事)、久保谷恵子の四人の東腎協会員を中心とした七人で、八月には東腎協の宝生会長の出席の下、準備会も開かれています。

さて当日は、透析患者十六名、家族、来賓など十名の計二十六名が参加。発起人代表の藤代さんの挨拶のあと、坂本三鷹市長、岩崎三鷹市医師会副会長、そして東腎協を代表しての小泉さんの挨拶がありました。続いて、発起人の一人でもある国立公衆衛生院の西三郎先生が、「透析医療の現状と将来の問題点」と題して講演を行い、活発な質疑応答が行われました。

十分間の休憩のあと役員選出に移り、会長に菅野さん、福会長に久保谷、事務局長に藤代さん、そして他の発起人を幹事に選出しました。

後半は、市役所福祉部次長の健保改正の内容説明、栄養士の挨拶などがあり、二時に始まった発会式は四時に終わりました。

当面の活動としては、出席できなかった人達に「入会案内」を送付すること、一月には、栄養士の食事指導を中心にした交

流会をもつことが計画されています。

※入会案内の欲しい方は、

藤代へ

(久保谷記)

健保改悪、年金法改正問題など

東京で関東ブロック会議開く

十二月十五日、十六日にかけて、東京都新宿区の日本青年館で、第十六回関東ブロック会議(東腎協主催)を開き、八都県二十四人が参加しました。ほかに全腎協から小林事務局長、泉山運営委員が参加しました。

十五日(土)は、各都県の活動報告(腎バンクキャンペーン、役員会など)のあと、今回の健保保険法の改正後の影響について、各都県が状況を報告しました。

東京以外の各県の障害者医療費助成は、県が半分、残りの半

訃報

東腎協常任幹事として活躍してこられた岩崎忠さん(科橋内科板友会)が11月30日、死去されました。心からご冥福をお祈りいたします。

分を市町村の負担になっているため、予定はされていても、議会の手続きが遅れている所があることが報告されました。

十六日(日)は、年金法の改正問題について、その評価と運動の方向について、また、読売新聞が報道した腎臓売買については、患者のとるべき態度についてそれぞれ話し合いました。

最後に、東腎協から関東ブロックとして、会員の親睦を図る交流会を開くことが提案され、検討していくことになりました。次回は千葉の開催予定です。

事務局から

常任幹事会報告

◎第66回(10月28日、12人)

①国会請願署名・募金②関東ブロック会議③東腎協総会④渋谷区在住交流会⑤全患連定期大会⑥事務所、会費値上げ

◎第67回(11月18日、13人)

①関東ブロック会議の議題②東腎協総会の講演③事務所、会費値上げ④60年度の活動方針⑤東難連との連携⑥その他

◎第68回(12月23日、12人)

①60年度の活動方針②東難連(東京都委託の医療相談会)について③その他④「年金法改正について」学習

新入会員紹介

よろしく

広瀬美智子、曽根啓之

すずらん腎友会(28人)

▽115 北区赤羽2の15の10

望星赤羽クリニック内

国分寺南口クリニック腎友会

(15人)

▽185 国分寺市南町3の15の6

国分寺南口クリニック内

全腎協の国会請願は

2月7日(木)に

昨年秋、会員の皆さんが取り組んだ署名を持って国会請願を行います。医療と福祉をめぐる状況は、ますます厳しいものになって患者を苦しめていますので、この機会にご参加下さい。なお、まだ署名が手元にある場合は、至急東腎協へお送り下さい。

渋谷区在住者交流会に13人が集まり話し合い

12月9日(日)、渋谷区大向区民館で区内在住の会員13人が集まり交流しました。渋谷区内には、森事務局長、泉山副会長が住んでいるので、2人が中心になってこの交流会を準備した

ものです。

透析導入数カ月という会員もおり、体調のこと、食事のことなど身近な問題が話し合われました。今後、区内在住の患者会として組織していくことが確認され、泉山知威さんを会長に選出しました。

第14回幹事会を

2月24日開きます

幹事会は、第十三回総会に提案する議案を討議します。特に今回の会議では、会費値上げと事務所独立問題など重要な事項の討議がありますので、多くの幹事の方の参加をお願いします。

東腎協へ送金の場合には必ず通信欄に記入を

東腎協会費、署名などのカンパ金を郵便振替で東腎協へ送金する場合は、必ず奥の通信欄へ内容を書いて送って下さい。事務局では、通信欄の記入が

ないために何の入金かがわからなくて非常に手間取ることもしばしばあります。なお、会費の納入の場合は、患者会名、会費納入の人数など必ず記入して下さい。

あなたも一度

お便りを下さい

会員の皆さんの原稿、お便り、情報、ひとり言やカットなどなんでも気楽に書いて事務局へお送り下さい。

なお、原稿が長い場合は短くすることもあります。

ハ編集後記

ストレス解消のためによく美術館へ出かけることにしているが、都内には40/50もあるといわれているのでなかなか回りきることができない。今年も一つでも多くの美術館めぐりをしたいと思っているのだが、東腎協の方も忙しいようだ。(加藤)